

「1968 年 激動の時代の芸術」展関連講座

北井一夫と考える

# 2020 年代のアーティスト像

北井一夫さんを講師に招き、表現者として生き抜く術について考える 2 日間の連続講座。

1960 年代から現在まで、写真家として第一線で活動してきた北井一夫さん。近年は欧米での再評価も進み、戦後を代表する日本の写真家として確かな地位を築いています。北井さんは 1960 年代より、写真集『抵抗』を自費出版し、70 年代には仲間とともに「のら社」を設立、自他の写真集を刊行するなど、プロデューサー的な視点を絶やすことなく、自らのキャリアを切り開いてきました。この講座では、カメラ雑誌の編集者やギャラリストをゲストに交え、表現者としてこれからの時代をいかに生き抜くか、その術について話し合います。そもそも現代における写真の評価ってどうなってるの？自分の表現を世に問いたいのだが、どこに打って出ればいいのか…。など、表現者を志す人、写真、現代アート全般に関心のある人、ふるってご参加ください。

開催日 3 月 9 日(土)・3 月 10 日(日)

時間 各日 10 時～15 時

場所 静岡県立美術館 実技室

対象 3/9…本気で写真家になりたいと考えている人  
3/10…現代アートや写真に関心のある方はどなたでも

定員 各日 15 名

参加費 「1968 年 激動の時代の芸術」展観覧料  
(一般 1000 円 70 歳以上 500 円 大学生以下無料)

持参物 ・昼食 ・9 日に参加希望の方は作品 (講習会があります)

\* 紙焼き写真 10 枚以上、デジタル画像のプリントアウト可、  
モノクロ・カラー可、大四サイズ程度



北井一夫「パレード」より：タオル 日本大学芸術学部内 1968 年



講師：北井一夫 (写真家)

1944 年 中国・旧満州鞍山市生まれ。1965 年 日本大学芸術学部を中退、写真集『抵抗』(未来社)を自費出版。1971 年『三里塚』(のら社)刊行。1972 年 日本写真協会新人賞受賞。1976 年 第 1 回木村伊兵衛賞を受賞、『村へ』(アサヒカメラ 10 月増刊)刊行。以降、写真集刊行、展覧会開催多数。2012 年「いつか見た風景」展 (東京都写真美術館)開催。2013 年 日本写真協会・作家賞を受賞。2017 年『写真家の記憶の抽斗』(日本カメラ社)刊行。

【お申込み方法とお問合わせ先】 ※下記のいずれかの方法でお申込み下さい。

◆FAX ◆郵送 ◆実技室ポストに投函 ◆WEB で申込み

県美 HP アドレス : <http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

締切り : 3/2 (土) **必着** ※定員に達し次第募集を締切りとします。

静岡県立美術館 学芸課 実技室担当 〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2 TEL : 054-263-5857 FAX : 054-263-5742



WEB申込みはこちら

## お申込み用紙

北井一夫と考える

2020 年代のアーティスト像 3/9(土)・3/10(日)

お名前 \_\_\_\_\_ (中・高・大) 年生・大人

TEL \_\_\_\_\_

連絡が付きやすい時間 \_\_\_\_\_ 時頃

参加希望日に○を付けてください

3/ 9(土)「これからの写真家」

3/10(日)「アートマーケットとの付き合い方」

※ご記入いただいた内容は、イベントに関する連絡以外には使用いたしません。  
※定員に達し次第募集を締切りとします。

※1 日のみ受講、または 2 日間連続受講が可能です。各日の講座内容や募集要項が異なりますので、裏面の詳細をご確認ください。

3/9  
(土)

北井一夫×村上仁一

## 「これからの写真家」

1960～70年代のカメラ雑誌を媒体に、写真が情報として流通した時代から、オリジナルプリントが美術品として売買される現代までの写真を取り巻く状況の変化について、自らも写真家として活動する、村上仁一氏を交え考察する。後半は受講者の作品講評を行いつつ、これからの写真家像を模索する。

ゲスト：村上仁一（日本カメラ副編集長）

1977年、東京生まれ。2001年、東京ビジュアルアーツ卒業。第16回写真「ひとつぼ展」グランプリ、第5回ビジュアルアーツフォトアワード大賞を受賞。写真集『雲隠れ温泉行き』（青幻社）を出版。2008年より雑誌『日本カメラ』の編集者として現在に至る。小林紀晴『写真と生活』（リプロアルテ）、田村彰英『夢の光-Light of Dreams-』（日本カメラ）、上野修『写真・批評・集成』（野村書房・私家版）、金村修『エクトプラズム プロファイリング』（リプロアルテ）、北井一夫『写真家の記憶の抽斗』（日本カメラ）などの編集にも携わる。



時間：10時～15時 場所：静岡県立美術館 実技室 対象：本気で写真家になりたいと考えている人

定員：15名 参加費：「1968年 激動の時代の芸術」展観覧料（一般1000円 70歳以上500円 大学生以下無料）

持参物：講評会があります作品をご持参ください（紙焼き写真10枚以上、デジタル画像のプリントアウト可、

モノクロ・カラー可、大四サイズ程度）、昼食

北井一夫×千葉由美子

## 「アートマーケットとの 付き合い方」

3/10  
(日)

ギャラリーの運営、アーティストのプロモーションはもとより、海外のアートフェアに出展し、国内外のマーケットやコレクター事情にも通じる千葉由美子氏とともに、2020年以降の目指すアーティストとしての生き方と、その夢を叶えるための戦略の立て方について熱く語り合う。後半は、1968～87年に都内で現代美術画廊を運営し、日本の現代美術をマーケットの面から支えた実川暢宏氏にもご参加いただき、より長期的な視点から議論を深めていく。



ゲスト：千葉由美子（Yumiko Chiba Associates ディレクター）

1998年アーティストマネジメント及びアートプランニングオフィスとして Yumiko Chiba Associates を設立。高松次郎のエステート（The Estate of Jiro Takamatsu）及び自社ギャラリーの運営、アーティストのプロモーション・管理業務を手がける一方で、美術館での展覧会企画の他、アート・パーゼル香港、パリ・フォトなどの国際的なアートフェアへの出展、企業のアートワークやギャラリースペースの運営・展覧会企画といったコーディネート、プランニングを行う。

特別ゲスト：実川暢宏氏

1937年静岡県生まれ。1968年に実川美術を設立後、87年まで目黒区自由が丘と一部銀座で「自由が丘画廊」を運営した。70年代～80年代の現代美術を画商の立場から牽引し、コレクターの育成、国内のアートマーケットの成長に寄与した。

時間：10時～15時 場所：静岡県立美術館 実技室 対象：現代アートや写真に関心のある方はどなたでも

定員：15名 参加費：「1968年 激動の時代の芸術」展観覧料（一般1000円 70歳以上500円 大学生以下無料）持参物：昼食